

小林市郷土芸能フェスティバル



ふるさと 郷土の誇りを次世代へ—

第7回小林市郷土芸能フェスティバルが、11月12日に文化会館で開催されました。郷土芸能フェスティバルは、市内各地で受け継がれてきた伝統芸能が一堂に会し、披露されるイベント。本来3年に1度開催されてきましたが、新型コロナウイルスによる中止を挟み、6年ぶりの開催となりました。

受け継いできた舞や踊りを 市内8つの団体が披露

小林市郷土芸能保存会連合会に所属する8団体が出演したほか、特別ゲストで国指定無形民俗文化財の「祓川神楽」(高原町)も出演。市内外から約350人が来場し、各団体が地域で舞い継がれてきた郷土芸能を披露すると、会場は大きな拍手に包まれました。

また、演目の最後には、野尻地区出身で江戸太神楽師(曲芸師)として国内外で活躍する仙若さん・若遥さん親子も特別出演。華麗な技で会場を沸かせました。



①岩戸神楽 (堤・水流迫)

350年以上前から舞い継がれてきた小林で現存する唯一の神楽です。五穀豊穡と稔りに感謝し、毎年7月30日岩戸神社で行われる夏の大祭(六月灯)で披露されています。

②紙屋城攻め踊り(野尻町紙屋)

戦国時代、伊東氏と島津氏は城の争奪に明け暮れました。その様子が江戸時代の社会安定期に唄や踊りに表現され、城攻め踊りが発生したと考えられています。

③真方一区兵児踊(真方)

島津・伊東両氏の争いで、島津氏が士気を鼓舞するために各種の戦法を取り入れ、法螺貝・太鼓を鳴らして踊らせたのが起源と伝えられています。また、島津氏は兵児踊りとおして日頃の士風の鍛錬に励んだともいわれています。

④東方輪太鼓踊り(東方)

豊臣秀吉の朝鮮出兵で島津氏が各地で勇戦敢闘し、士気を鼓舞するため鐘や太鼓を打ち鳴らして戦い大勝利したといわれています。この勇壮な様子を舞踏化したものが輪太鼓踊りの起源です。

⑤剣舞一の谷(須木麓)

源平合戦での一場面、源氏の武将・熊谷次郎直実が平氏の若武者・平敦盛を討ち取る場面が剣舞として語り継がれてきたものといわれています。

⑥東麓新地馬場棒踊り(野尻町東麓)

朝鮮出兵からの引き揚げ後、島津氏の戦功を祝して領内各地で踊られたさまざまな踊りの一つが棒踊りと伝えられています。その後、家内安全や五穀豊穡を祈願して祭りや行事などで踊り継がれてきました。

⑦細野一区輪太鼓踊り(細野)

朝鮮出兵のとき、島津氏の軍勢が鐘や太鼓を打ち鳴らしつつ踊りながら敵陣に入り奮戦した勇壮な様子を舞踏化したもの。平時の軍事訓練として薩摩藩内で踊られ、江戸中期に農民の間に広まって小林に伝わったとされています。

⑧永田町馬踊り(細野永田町)

明治・大正の頃、谷山(鹿児島市)・国分・隼人あたりから今の永田町へ荷馬車業者が移り住み、そこから伝えられたのが永田町馬踊りの初めと伝えられています。